

一般質問

天日公子

(民主クラブ)

第5次富良野市総合計画は

問 計画の中の公民協働とは。

答 地方分権が始まり、これから進んでいく地域主権の中で自助・共助・公助は地域におけるこれからのまちづくりを行う上で欠くことができない。

協働とはそれぞれの出来る役割を充分果たしていくと理解している。

問 基本計画・実施計画、製本になる時期はいつなのか。

答 基本構想は22年9月に提案、基本計画・実施計画は23年度から始まるので、23年4月からの施行に充分間に合うようにして行きたい。

市立図書館の利用状況は

問 富良野市立図書館は毎年本の貸し出しと来館者が増えている。市民は気持ち良く利用できている。富良野広域圏の人達の利用状況、各町村との図書館連携状況、今後の関わりは。

答 広域圏住民の利用登録者数は全体の13・7%。貸出冊数は全体の10・3%。圏域の先進的

・中核図書館として、今後も相互連携による図書資料の効率的・効率利用の促進と、各図書館の機能強化に取り組む。

問 学校図書との関わりは。

答 ブックトラック事業による巡回貸し出し、道立図書館所蔵の児童書の大量一括貸し出し、調べ学習用図書等の団体貸付を実施。更に、情報提供や、実践指導など各学校の状況に応じた運営支援の実施。今後も学校・学校支援ボランティア・各関係機関と情報の共有を図り相互の連携を一層強化し、子ども達の読書環境の更なる向上に努める。



利用しやすくなった図書館

佐々木 優

(日本共産党)

子育てしやすい環境を早急に

問 昨年度1711人、今年11月まで113人と出生数は、近年激減。人口減少・高齢化率増加・現役世代減少、このままでは市の将来が成り立たない。

子育て支援は最も有効な手段、「子どもは国・地方の宝」と位置づけ、政治があらゆる手立てを尽くして、子どもを産み育てやすい環境整備が緊急に必要である。基本的な考えを伺う。

答 社会の財産と認識し、安心して生み、健やかに育っていける環境づくりを総合的に推進している。

認可保育所保育料の軽減を

問 共働き、就労を希望する女性の増加など、将来的にも保育を必要とする家庭は増加している。しかし、保育料の負担が重く子育て世代の悩みとなっている。市独自の支援策が必要。

答 厳しい社会情勢の中、負担



子どもは国・地域の宝

軽減を図るため見直しを検討している。国の制度改正を見極めながら、所得の少ない世帯への軽減を図る。

コミュニティ推進員を身近に

問 暮らしの安心を保障するセーフティネットは後退した。そのため地域と行政が連携し、公共領域の再構築のための地域づくりが重要になっている。

答 地域と行政を結びコミュニティ推進員制度をもつと身近な制度として、実効性の高いものになければならない。

答 行政からの情報提供、地域における情報収集、情報の共有する中から連携を深め、協働による地域づくりを進める。